

学舎 「支え合いステーションについて」(要約) 2024. 6. 26

出席 14人 +2人 (市 市民活動推進課 原井さん・渡辺さん)

資料 災害時支え合いステーション@けやきコミセン
災害時支え合いステーション運営の手引き (令和6年6月6日改定)
防災情報マップ・防災ハンドブック (昨日納品されたばかり)

原井さんお話し

けやきコミュニティセンターは武蔵野市地域防災計画の災害時地域支え合いステーションとして地域特性に配慮した拠点として指定されている。

災害時支え合いステーションとはなにか、

災害について、地震洪水などの外的要因によって引き起こされ、それに対応する能力(防災力)を超えた場合に災害となる。防災力を高めることで災害を起こさない、防ぐことになる。災害時地域支え合いステーションはあくまでも地震を想定している。

令和4年に東京都が発表した首都直下型地震による被害想定。今後30年間で70%起こるとされており、実際に起こった場合武蔵野市は市の区域の70%以上の範囲で震度6強を観測すると言われてしています。

災害時支え合いステーションとはなにか、

H21年武蔵野市コミュニティに関するアンケート調査で地域課題として防犯治安対策と災害時対応がでてきた。またH24年地域に関わりたいことについても災害時などいざというときに助け合えるコミュニティが上位を占めていた。

平成22年度第6期武蔵野市コミュニティ市民委員会最終報告でもコミュニティセンターが公の施設としての防災拠点という役割が提案されました。

H23年3月東日本大震災が発生

その後武蔵野市地域防災計画の修正の際に初めてコミュニティセンターを災害時支え合いステーションと計画上指定することになりました。

H26年度から検討を始めてH27年度武蔵野市コミュニティ研究連絡会にて災害支え合いステーション運営の手引きが作成されました。

市が期待する役割・機能

武蔵野市地域防災計画に載っている記載として「災害時におけるコミュニティセンターを災害時地域支え合いステーションとして位置づけ、地域特性に配慮した共助の拠点としての体制を推進する」。

第4期コミュニティ評価委員会では地域の諸団体とのネットワークやつながりを生み出すなど、人材充実に貢献。これからも強化されることでコミュニティが深化、拡大していくことが期待されるとあり、防災に関わらず、地域の拠点として様々な団体とのつながりを重視していくことになっている。

武蔵野市地域計画上震度5弱以上の地震が起きたら災害対策本部が立ち上がります。家

が住めなくなった方は学校避難所（第4中・大野田小）に避難。お家が無事なら在宅避難を推進している。これが一時避難所。2次避難所はいっぱいになって入れない場合に近隣地域のホテルなどを借り切って2次避難所となる。災害時地域支え合いステーションは1.5次避難所と考える。1次避難所をサポートするための補完するための避難所となります。

運営の具体的流れ どうやって開設するか。発生は開館中を想定。

自身・利用者の身の安全の確保。安否確認。利用者の速やかな退館。

閉館については市民活動推進課に報告する。張り紙をして地震発生中なので一時的に閉館していますと掲示し、利用者の退館と閉館を目指す。

その後災害時地域支え合いステーションの開設をしていく。協議会代表者がリーダー、副代表がサブリーダーになっていただき運営組織を発足する。その後建物の安全確認のセルフチェックを複数人で行う。外から見てガラスがわれていないか、建物がひび割れていないか。ライフライン（電気・ガス・水道・通信網）の確認。

市の災害対策本部（市民活動推進課）へMCA無線機を外へ持ち出し報告する。バッテリー式なので電源を抜いても6時間持ちます。

人がそろい、建物が大丈夫なら、開設の是非について伺うことになる。その情報をもとに避難所の情報なども考え合わせて、市長に報告をする。本部長の指示で災害時支え合いステーション開設の指示があります。開設後の主な役割は在宅避難者を支援すること。的確な情報の伝達、在宅避難者に対する物資の配給拠点。学校避難所に届くのでそれを在宅避難者分としてもらってこちらで配るという想定。

これからのけやきコミセンにお願いしたいこと。

けやきコミュニティセンターでどこまでやれるのか、これは協議会で検討する。

市が期待する役割について、これならできる、これはできない、ということをはっきりさせておく。必要な物資が出てきたら、市民活動推進課や防災課に要請をかける。地域の要請がないと予算化しにくいので声を上げていただきたい。

以上

その後質疑応答、意見交換をしました。

運営委員全体にこれらの情報を共有し、地域防災の会と連携をとり、できることに取り組めるように話し合っていきたいと思います。

（まとめ 中澤）